

ベンチャーについての情報の底浅さ

最近の日本経済新聞朝刊のトップ記事に起業等に関する記事があり、一部のタイトルのみ記載します。

5月3日（土） 起業促進へ税優遇拡大 **政府検討**
補助金で年収500万円保証企業の新陳代謝促す

6月3日（火） 起業・廃業に低利融資
経済の新陳代謝促す **成長戦略**

6月16日（月） 起業手続き1ヵ所で **戦略特区**
官民共通窓口外資誘致狙う

ここで言う新陳代謝とは、古いものが新しいものに次々と入れ替わることですが、経済の活性化のために退場する企業の終活を促し、他方新たなベンチャー企業の輩出を強く求めている政策を押し進めようとしております。

しかしながら“笛ふけど踊らず”の譬えで、将来的にも有力なベンチャー企業の誕生は、そう一朝一夕で成り得る話しではありません。

特に、政策担当する政治家や、これらの情報を正しく伝えて行くマスコミ関係者の知識の無さと情報の浅薄さに、大いに不信と不満を感じております。

それは、6月6日（金）BS日本テレビの22:00～の「深層NWES」“ベンチャー育てぬ日本”の番組を観たからです。その内容はゲストに2人の政治家（元官僚の国会議員）が出演し、キャスター2人との対談を通してベンチャーはなぜ育てないかを問う形で進行してございました。その中のテーマをいくつか拾ってみますと

- 日本が「起業大国」になるには
- ベンチャー不足で日本は大損？
- 新薬実用化まで（イメージ図）の製薬ベンチャーの例、
- 今求められている産業構造の再構築と新陳代謝が大切 などでした。

これまで私個人としては自ら起業し、ここ十数年来起業支援をライフワークとして努めてきた経験をもとに観まして、余りにも取材や構成が総花的で、本質的なベンチャーとは何か？のことがらに触れない内容で、次のような多くの疑問を感じました。

- 果たしてベンチャーは育てるものなのか？
ホンダ、ソニー、パナソニックなど、今日の大企業は創業時に強烈な企業家魂のリーダーの存在があって、けして育てられたものではない。

- ベンチャービジネスとは、リスクテイク（リスクをとる）の成せる業なので、そのために自らもリスクヘッジ（回避や軽減）を十分考慮して進めるべき自己責任の行為です。
- 創業者が、スタート時よりベンチャーキャピタルの資金を導入しての事業計画ありきの発想は、余りにも起業の姿勢として安易すぎるのではないか。
- 日本における起業率が廃業率を下まわる現実には、日本古来の価値観、文化的な背景があり、社会教育と家庭教育（家庭における母親の意見や干渉）など、保守的で革新性を嫌う風潮の存在があると思う。

最後に当番組で、2000年以降に創設された業種構成で成長したものは「情報通信業」と「医療福祉分野」が多いなどの関連情報に全く触れず、起業のスタート時は資金を集めることのみでなく、もっと広範囲のことがらに触れてないことは全く残念な番組だったと思っております。